

March

No. 14

## らいぶらり

発行 新潟市立万代高等学校図書館  
 編集 新潟市立万代高等学校図書委員会  
 〒 950-8666  
 新潟市中央区沼垂東6丁目8番1号  
 ☎ コーエイ印刷株式会社 電話 286-2011



ビジュアルデザイン授業の一環でのマルチメディアコーナーデザインです。コンセプトは「学校が明るくなるデザイン」。白雪姫や赤ずきんちゃん、ヘンゼルとグレーテル、そして森の動物たちが、絵本の世界を飛び出してお菓子の家を目指します。お菓子のひとつひとつまで丁寧に作られた作品です。(展示期間 11 月～1 月)

## 巻頭言

学校長 杉田 勉

昨年歌手のポップデイルランがノーベル文学賞を受賞したことが大きな話題になったが、毎年候補にあがる村上春樹は今回も受賞できなかった。これまでにノーベル文学賞を受賞した日本人は川端康成（1968年）と大江健三郎（1994年）の二人だけである。

ノーベル賞の候補者名や選考過程は50年間非公開とされてきたがその一部がこの度公開され、川端が受賞する2年前にも最終候補に残っていたことがわかった。「日本人の生活様式を見事に表現し、倫理観や美的意識、人々を鮮やかに描き、西洋的な影響を受けていない」ということが高く評価されたらしい。村上春樹が受賞できないのは彼の作品が西洋的な影響を受けているからなのか、などと考えてしまう。

ちなみにこの年（1966年）の候補者総数は72人で、川端以外に三島由紀夫もその一人だったのだが、その中に新潟県人がいたことを知っているだろうか。その人の名は西脇順三郎。小千谷市出身の彼は元々画家を目指していたのであるが学生時代に好んで読んでいた英詩の影響を受け、いわゆるシュールレアリスム文学に目覚め数々の詩集をてがけた。彼がノーベル賞受賞を逃したのはその難解な詩の翻訳が障害となったとも言われている。確かに難解ではあるが画家を目指していただけあって彼の詩は一枚の絵のようにも思えてくる。兎にも角にも、川端康成や三島由紀夫といった文豪と肩を並べる人物がここ雪国新潟から生まれていることに誇りを感じる。ぜひ図書館で彼の著作を手にとって西脇の描くシュールな世界に触れてみてほしい。

# 万代高校 ベストリーダー

2016年度、貸出の多かった本は以下の通りです。

〈万代高校全体〉2016.4.1～2017.1.31 貸出分

順位	書名など	回数
1位	『コンビニ人間』 村田紗耶香著 文芸春秋	15
2位	『小説 君の名は。』 新海誠著 KADOKAWA	13
	『また、同じ夢を見ていた』 住野よる著 双葉社	13
4位	『君の臍臓をたべたい』 住野よる著 双葉社	9
5位	『ざるそば〈かわいい〉』 つちせ八十八著 KADOKAWA	8
6位	『ラメルノエリキサ』 渡辺優著 集英社	7
	『ポイズンドーター・ホーリーマザー』 湊かなえ著 光文社	7
8位	『最後の秘境東京藝大』 二宮敦人著 新潮社	6
	『蜜蜂と遠雷』 恩田陸著 幻冬舎	6
	『玉依姫』（八咫鳥シリーズ） 阿部智里著 文芸春秋	6
	『聲の形 1～4』 大今良時著 講談社	6
	『ドグラ・マグラ2』 夢野久作著 角川書店	6
	『どこかでベートーヴェン』 中山七里著 宝島社	6
	『文豪ストレイドッグス3』 朝霧カフカ著 KADOKAWA	6
	『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』 七月隆文著 宝島社	6
	『世界から猫が消えたなら』 川村元気著 マガジンハウス	6
『英語の勉強法をはじめからていねいに』 安河内哲也著 ナガセ	6	

次に、ベストリーダーの中から、図書委員が1冊選んで紹介します。

## 『ラメルノエリキサ』

渡辺優著 集英社



1年4組

中村 晴空

みなさん、最近「すっきり」していますか？  
勉強や人間関係などで日ごろのストレスが溜まっているのではないのでしょうか。そんな

みなさんにおすすめの本が、「ラメルノエリキサ」です。

この本は、高校一年生の小峰りながある事件に巻き込まれることで始まります。なんでもこの主人公のモットーは復讐。幼いころから、どんなに些細なことであろうとやられたら絶対にやり返す、不快なことは復讐でケリをつける。目的は自分がすっきりするため。なんとも自己中心的な理由だけれど、読み始めるとなんだかクセになってしまうようなお話です。

この物語は、主人公の語り口調で進んでいきますが、彼女の心の声の特にハマってしまうポイントではないでしょうか。「本当は思っているけれど、絶対言えない。」というようなことが、彼女の毒舌でズバズバ書かれています。女子のみなさんは少なからず共感する部分があると思います。

学校生活のリアルさや、事件のスリリングな展開もあり、読みやすいけれどとても満足できる物語です。「ラメルノエリキサ」という謎の呪文の意味とは？果たして彼女の復讐は成功するのか？かなり不謹慎だけど、そこがとても面白いです。あなたもこの小説を読んで「すっきり」してみませんか？

\*この作品は、第28回(2015年)小説すばる新人賞を受賞しています。

## 『君の臍臓をたべたい』

住野よる著 双葉社



1年3組

皆川 晴香

『君の臍臓をたべたい』。斬新で、タイトルだけ聞くとグロテスクに感じなくもないこの本。手に取ってみると、あたたかさの中にどこか切なさがあるような表紙が目にとまります。内容も、読んで

いるとなんだか泣けてくるような、心があたたかくなるようなものになっています。

物語は、主人公とそのクラスメイトである山内桜良が中心となって展開されていく。盲腸の手術後、抜糸のために病院へ行った主人公は、ロビーのソファの上に一冊の本が置き去りにされているのを見つける。「共病文庫」と書かれたその本に興味をもった主人公は、中をのぞいてしまう。臍臓…死ぬ…そんな言葉が書かれたその本は、「それ、私のなんだ。〔地味なクラスメイト〕くん、どうして病院に？」と声をかけてきた、クラスメイトの山内桜良のものだった。自分とは正反対の彼女の秘密である、臍臓が使えなくなって死ぬということを知ってしまった主人公は、残り少ない彼女の人生の手助けをすることになる。初めは嫌々だった主人公も、彼女と過ごすうちにだんだんと彼女を大切な存在だと思い始める。桜良も、初めて病院で話した時の〔地味なクラスメイト〕から、〔秘密を知ってるクラスメイト〕〔仲のいいクラスメイト〕そして〔?????〕と、主人公の表記を変えていくのだった。

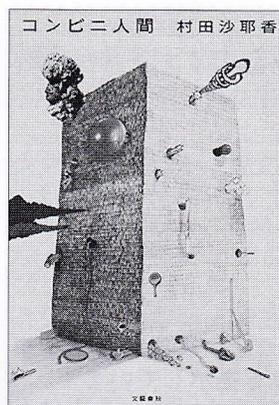
表記を変えていく、という表現を疑問に思った人があるかもしれません。この本の中では、主人公の名前は最後まで明かされないのです。会話の中に少しずつある、名前の特徴をいったものから推測するのも楽しいかもしれません。

ここまで書いてきて、あらずじで多くを書きすぎた気がしてきました。ですが、この本はあらずじを読んで終わりにしてはいけない本です。本当に泣ける本なので、ぜひ一度だけでも手に取ってみてください。きっと泣けますよ。

\* 2016 本屋大賞第2位。実写映画化され、2017年夏に公開予定。

## 『コンビニ人間』

村田紗耶香著 文藝春秋



2年4組

今井 哲

「普通」とは何だろう。毎朝同じくらいの時間に起き、ご飯を食べ、学校や仕事に行き、帰ってきたら寝る。その繰り返しだと思う。この本は、「普通」とは何かを問いかけてい

る本だと僕は思う。

この物語の主人公は、36歳で就職も結婚もせず、大学中にやっていたコンビニのアルバイトを18年以上続けている、古倉恵子という女性だ。彼女にとってマニュアルに従って動けばいいコンビニは安心していられる場所で、コンビニは彼女の一部になっている。そんなある日、35歳で職歴のない白羽という男が新人バイトで入ってくる。彼の目的は婚活。そんな白羽は彼女の生き方を否定する。

わたしはこの物語を読んでいて、何が「普通」なのか分からなくなった。主人公の古倉は幼少時には変わった行動をすることが多い子だった。そして「普通」であれば大学卒業後は就活して就職するだろうが、18年以上コンビニのバイトを続けている。それが彼女にとっての「普通」なのだ。白羽は「この世界は異物を認めない。僕はそれに苦しんできた人だ。」と言う。白羽も結婚できれば何も言われなくなる。ちゃんと就職して、いい年になれば結婚して、社会のために役立つ人間になるのが「普通」なのか。この物語の中で、古倉と白羽は同棲するが、周りの人は、「いい年をしたバイトと無職、ちゃんと就職して結婚しろ。」と反応する。古倉は結局就活はせず、コンビニで働き続けることを決める。それが「コンビニ人間」なのだ。

この物語はそういう意味では、現代社会の暗部や課題を突き付けてくる。自分自身に問いかけてほしい。何が「普通」で何が「普通」じゃないのか。この物語は、「普通」を考え直せと現代社会に問いかけているような気がする。

\* 第155回(2016年)芥川賞受賞作。

## 万代高校の生徒に読んでほしい！ 各教科の先生おすすめの本

### 〈国語〉

#### 『夏目漱石「こゝろ」を読みなおす』(平凡社新書)

水川隆夫著 平凡社 2005

タイトル通り、漱石の『こゝろ』を書き出しから終りまで、本文に則して読み解く本。たとえば「先生」(教科書に載っている部分では「私」)はなぜ「K」を同じ下宿に呼んだのか。「お嬢さんが結婚に値する女性であることを尊重するKに保証してもらいたかったから」(作田啓一)、「(自分がお嬢さんに積極的になれるように)潜在的な競争者としてKを引き入れた」(山崎正和)など、複数の解釈を紹介しながら、筆者なりの読みを提示しています。

『こゝろ』を読んで面白かったな、という人はもちろん、文学研究ってどんなことをするのかという人にもおすすめです。

#### 『男が女を盗む話～紫の上は「幸せ」だったのか』(中公新書)

立石和弘著 中央公論新社 2008

『伊勢物語』第六段(芥川)、『源氏物語』「若紫」など、日本の古典には男が女を盗み出すという物語の型があります。なんとなくロマンチックな、「純愛」の文脈で語られることが多いそれらを、「男の幻想」という観点から分析していきます。そして、その物語の型がどのように変化したか。現代の「女性拉致」まで視野に入れた分析は、古文を書いた人、書かれた人、そしてそれを読んできた人々が、確かに現代のわたしたちにつながっていることを感じさせます。

#### 『翼を持つ少女～BISビブリオバトル部』

山本弘著 東京創元社 2014

「ビブリオバトル」を知っていますか？数人の「バトル」がそれぞれの好きな本を5分で紹介し、オーディエンスが最も読みたくなった本に投票してチャンプ本を決めるこのゲームは、「知的書評合戦」とも言われ、最近図書館や書店でも開催されることが増えています。

この物語の主人公・伏木空は、高校で知り合った埋火武人に誘われてビブリオバトル部に入部します。SFを愛してやまない空と、ノンフィクション至上主義の武人。2人が真に理解しあう日は来るのでしょうか？

### 〈地歴公民〉

#### 『沈黙』(新潮文庫)

遠藤周作著 新潮社 1981

M. スコセッシ監督の映画で注目されている歴史小説です。江戸時代初期に日本を訪れた若き宣教師は、尊敬する師が棄教(キリスト教徒をやめること)した事実を知り、衝撃を受けます。そこで彼が出会ったのは江戸幕府の過酷な弾圧に苦しむ信者の姿だった。

日本人にはなじみがうすい一神教について深く学べるとともに、人間にとって「信じる」とはど

んな意味があるのか考えさせる内容となっています。

今後は映画を見に行こうかな。

#### 『河童が覗いたトイレまんだら』(文春文庫)

妹尾河童著 文芸春秋 1996

『少年H』などの作品で知られる妹尾河童の本業は、舞台芸術家。彼の描く立体的なスケッチはとても精密で斯界では熱狂的なファンがいるそうです。彼は好奇心のかたまりみたいな人で、ひよんなきっかけから「他人の御宅のトイレをスケッチしたい」と思いつきます。彼は著名人(昭和の大スターばかりで平成っ子にはなじみがないかも。あ、タモリがいます)にインタビューし、トイレをスケッチするレポートが圧巻。

トイレに興味がない人も、「人間が好奇心でここまでできるんだ」という感動が味わえます。

#### 『月と六ペンス』(新潮文庫)

サマセット・モーム著 新潮社 1959

世界的文豪の大ヒット作。イギリスのある町で証券マンが失踪した。語り手の作家は彼の妻の依頼で彼の居場所をつきとめます。彼、ストリックランドは突然、画家になると宣言し、すべてを投げ出し、絵を描き始めます。平凡に見えた男が突然本性をむき出しにし、そのエロスと才能に周囲の人びとがいやおうなく巻き込まれていく様がスリリングに描かれています。終盤、すべてを失ったストリックランドが芸術の神に救済される大どんでん返しがあり、読者は本当にこの小説を読んだよかったですという思いに浸れます。

#### 『学研まんがNEW世界の歴史 全12巻』

近藤二郎監修 学研プラス 2016

世界史で苦勞している人も多いかと思います。そんな人にお勧めです。漫画ならイメージしやすいという人も多いはず。世界史を理解するきっかけになるそんな本です。

### 〈数学〉

#### 『数学難問BEST100』

小野田博一著 PHP研究所 2015

いつも頭の片隅に数学の問題をストックしています。思い出しては考えて思い出しては考えての日々です。

大数学者オイラーやニュートンも頭を悩ませたという問題を、みなさんも考えてみましょう。

#### 『組み紐の幾何学～実用から位相幾何の世界へ』(ブルーバックス)

村杉邦男著 講談社 1982

望遠鏡はドーナツと同じで双眼鏡はメガネと一緒に。そんな不思議な？世界があります。上の本は講談社ブルーバックスの一冊で、このシリーズは数学だけでなく自然科学全般を題材にしていて、学校の図書館にも何冊かあるので、足を運んで手に取ってみてください。

#### 『数学ガール・フェルマーの最終定理』

結城浩著 SBクリエイティブ 2008

数学Aで勉強した(している)整数論の深遠さ

を感じさせてくれる本。

高校二年生の「僕」と三人の数学ガール「ミルカ・テトラ・ユーリ」による対話形式の読み物で、数学好きな人への朝読書にお勧めの一冊です。

〔理科〕 .....

『笑うカイチュウ～寄生虫博士奮闘記』

藤田紘一郎著 講談社 1994

ギョウチュウ検査とは無縁のクリーンな現代社会に生きる高校生にはぜひ読んでもらいたいおもしろくて、ためになる一冊です。嫌われ者のカイチュウが、実は花粉症やアトピーを無くし免疫力を高めるのに役立っていたなど、寄生虫の特徴や怖さの他にその有用性が紹介されています!! 著者はあまりのカイチュウ愛から体の中にサナダムシを飼っていたとか。思わずフッフッと笑ってしまうエピソードが多数掲載されています。

『化学の歴史』(ちくま文芸文庫)

アイザック・アシモフ著 筑摩書房 2010

著名なSF作家で、化学者であるアシモフによる化学の歴史書。化学初学者向けに書かれていて読みやすい。「なぜこんなことを学ばねばならないのか」「どうしてこの発見はすごいといえるのか」など化学好きはますます化学を好きになるかも。

『錬金術の復活』(ポピュラーサイエンス)

曾根興三著 裳華房 1992

世界史的には評判の悪い「錬金術」。ニセ科学の代名詞のような錬金術にも深いドラマがある。「竹取物語」を錬金術の視点から考察すると、納得できることがたくさん。「イカサマ」と切り捨てるのはもったいない。とても読みやすい本です。

『世界で一番美しい元素図鑑』

セオドア・グレイ著 創元社 2010

今や知らない人はいないくらい有名な本。たしかに美しい写真だらけ。アイドルの写真もまぶしいけれど、元素だって見ようによっては負けにくいくらいきれいです。趣味でこれだけの元素を集めた作者はすごい。

でもね、性質もおもしろいんですよ。本気で学んだ者だけが、面白さを知ることができるんです。

『巨大数』(岩波科学ライブラリー)

鈴木真治著 岩波書店 2016

巨大数と言われて、いくつくらいの数字を思い浮かべますか。地球と月の距離「38万キロ」はなんだかあまり巨大でない感じがします。地球と太陽の距離「1億4千9百60万キロメートル」。これ位になると巨大な気もしますが、まだ数えられる感があります。地球からイスカンダルまでの距離「159京6千兆キロメートル」だとかなり巨大で、もう数えられそうにない感じがしますが、「1.596×10の18乗」と書くと、何だか数えられる気がします。

ちなみに10の100乗を1 googol といいます。検索エンジンの google は宇宙に存在する原子の数よりも多いと言われる googol を社名にしようとしたところ、綴り間違いをしてしまったらしいので

すが、とてつもない巨大な数なのに、何だかその辺に転がってそんな感じが出るのが不思議です。

判断がつかなくなってくる、そんな巨大数を分かりやすく(?)説明している本です。

〔保健体育〕 .....

『嫌われる勇氣～自己啓発の源流「アドラー」の教え』

岸見一郎・古賀史健著 ダイアモンド社 2013

フロイト、ユングと並び「心理学の三大巨頭」の一人アドラーの思想を、物語形式で「どうすれば人は幸せに生きることができるか」というシンプルかつ具体的な答えを提示しています。

『会話は「最初のひと言」が9割』(光文社新書)

向谷匡史著 光文社 2011

相手との会話で重要かつ成功のカギを握るのは、要所とタイミングを外さない「最初のひと言」であることを著者が伝授します。

〔外国語〕 .....

『きみに読む物語』

ニコラス・スパークス著

アーティストハウスパブリッシング 2004

とても読みやすい恋愛小説です。映画化もされていますが、小説の方が細やかな描写を楽しめます。それに主人公がどちらを選んだのか分からなくてどきどきします。たぶんファーストキスの場面が、数年前の模擬試験の長文読解問題の英文に使われていました。日本語で読んで面白かったら、英語の原作にも挑戦してみてくださいはどうでしょう?

『The Little Prince』(Mariner books)

Antoine De Saint-Exupery 著 2000

日本でもお馴染みの「星の王子さま」。読んだことのある人も、まだない人も日本語版、英語版両方読み比べ、表現を比較しながら、この本を味わっててください。この本の中には、心に残るすてきなことばがたくさんあります。あなたのお気に入りなことばを見つけてみてはいかがでしょうか。そして、ぜひ何回も読んでみてください。時間が経つと、また違ったものが見えると思います。

『Ann of Green Gables』L.M.Montgomery 著

『赤毛のアン』村岡花子(翻訳) 新潮社 1954

誰もが知っている永遠の名作ですが、まだ読んだことがない人にはぜひお勧めです。ちょっとした手違いから「緑の切妻屋根」の老兄妹に孤児院から引き取られた11歳の赤毛の女の子アンが、持ち前のおしゃべりや想像力で様々な事件を引き起こしながらたくましく成長していきます。読んでいくうちに本当に心が温まり、ほんわりとした気持ちになります。翻訳を読んだら次は原書にチャレンジ!

万代高校図書館に入っていない本は、現在購入手続き中です。しばらくお待ちください。

## 「図書委員会の一年」活動報告

### 「新しい取り組み」について

図書委員会では新たに二つの取り組みを始めました。まず一つ目は『窓際に花を飾る』ことです。去年まで物が置かれておらず暗い印象のあった窓際を明るくするために、図書委員それぞれがアイデアを出して決定しました。カランコエなど数種類の植物が鉢植えに貼られた花言葉や特徴の紹介とともに飾られています。



二つ目は『わたしの本棚』です。これは自分の好きな本を数冊選び、コメントを添えて他の人にお薦めするという、自分の部屋にある本棚を公開するような取り組みとなっています。本名を明かさず参加することも可能です。図書館をより良く利用してもらうためのこれらの活動を来年度も続けていきたいと思ひます。

(2年 若槻 裕佳)

### 「掲示班の活動」について



マルチメディアコーナーの飾り付けは、季節に合わせた素敵なものができ、毎回、委員の仲間と楽しくできました！

(3年 北田 葵)



### 「ブックハンティング」について

図書委員会では例年通り、参加希望者を募ってブックハンティングを行いました。去年に引き続いて参加しましたが、去年よりも若干参加人数が増えています。ブックハンティングの内容としては、指定場所で集合し、一定金額内での本の選定と購入、もしくは自分で各自良いと思った本を推薦するといった形でした。どちらにしても本の選定基準は、生徒が借りたいと思えるものです。例えば現在流行している本や職業・資格についての本、悩みを解決するのに適した本

などです。こういったものが万代生にとってぜひとも借りたいと思えるのか、一生懸命考えて選びました。この「らいぶらりー」を見て興味を持って頂けたなら、気軽に図書館へお越しください。勉強場所としても利用できますし、漫画やライトノベルなど読みやすいものも置いてあります。これからも生徒の皆さまや、先生方の利用しやすい図書館にしていけるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。(2年 増子 有希)

### 「古本市～水都祭企画」について

今年も様々なジャンルから数多くの本を寄贈していただき、図書委員一同、本の品質や出版年数さらには需要などを考慮した上で、最終的に独断と偏見で適当に楽しく値段をつけさせていただきました。



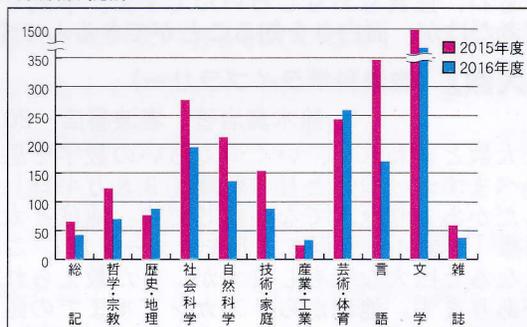
今年は図書委員だけでなく、ボランティアで協力してくれた数人の「目利き」による適切な指導もあり、充実と満足のラインナップになったと思ひます。(3年 金井 柊宗)

#### 〈統計〉

##### 月別統計



##### 分類別統計



### 編集後記

今年も多くの方々にご協力いただき、「らいぶらりー第14号」を発行することができました。この小冊子で、みなさんが図書館へと来てくださる機会が増えれば幸いです。

(図書委員長 3年 西村 拓真)